

教科シラバス（公民科 現代社会）

科目名	学年	使用教材	【教科書】
現代社会	1		改訂版 現代社会（数研出版）
単位数（ 2 ） 必修 ・ 選択			【副教材】 フォーラム現代社会（東京法令出版）

【学習目標】

広い視野に立ち、現代社会の様々な問題について主体的に考え、自ら人間としての在り方生き方について考えることができるようになる。
--

【学習方法】

ア．授業の予習として、教科書を2～3ページ程度読み、資料集等の該当部分に目を通しておく。 イ．教科書の文章で、読みのわからない漢字、意味のわからない語句があれば、必ずその都度辞書をひいて調べるよう自ら習慣づける。 ウ．授業中は、ノートにしっかりと記録を取り、教科書、資料集の重要箇所に下線を引く。 エ．授業後は新聞やニュースを見て、授業で学習したことを具体的な事件や身近な問題と関係づける。 オ．3年次の学習およびセンター試験につなげるためには、ノートを自分に合った形で整理・復習する習慣を身につける。

【学習評価】

次の4観点に基づき、学習内容のまとめり（定期考査までの学習範囲）ごとに下の評価項目により学期毎に評価（評価点）を行い、年間総合の評価は5段階の評定で総括します。						
①関心・意欲・態度	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、社会的事象を総合的に考えようとする態度と民主的・平和的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。					
②思考・判断	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄から課題を見だし、社会的事象の本質や人間としての在り方生き方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を適切に表現する。					
③技能・表現	現代社会の基本的問題と人間にかかわる事柄に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付ける。					
④知識・理解	現代社会の基本的問題と人間としての在り方生き方にかかわる基本的な事柄や、学び方を理解し、その知識を身に付けている。					
評価方法／観点	①	②	③	④		※評価は定期考査、課題提出状況、授業等を総合して行います。
授業態度・課題提出	◎				自己評価の実施	
ペーパーテスト	○	◎	◎	◎	定期考査（年4回）	

【学習アドバイス】

○新聞やTVのニュースに積極的にふれるようにしてください。社会に積極的に関わろうという意欲とともに、学習意欲が格段に高まるはずです。 ○「現代社会」の学習は社会人としての教養として大切ですし、3年次の「倫理，政治・経済」の学習とセットになりますので、積極的に学習に取り組んでください。

【年間学習計画】 注：6月以降については状況により大幅な変更の可能性があります。

月	学習内容（単元）	学習のねらい	学習活動（評価方法）例
4			課題提出による学習状況確認
5	1 現代の政治と法 ①民主政治の基本原則	・政治と法の基本原則を理解する。	
6	②日本国憲法の基本原則	・日本国憲法の成り立ちを理解する。 ・日本国憲法の基本原則を理解する。	
7	③平和主義と安全保障 ④基本的人権の保障と新しい人権	・日本の安全保障について、考察する。 ・基本的人権とは何かを理解する。	期末考査
9	④基本的人権の保障と新しい人権	・基本的人権とは何かを考察する。	課題提出による学習状況観察
10	⑤国民主権と議会制民主主義	・国会のしくみについて理解する。	
11	⑥内閣と行政の民主化 ⑦裁判所と人権保障	・内閣のしくみについて理解する。 ・裁判所のしくみを理解する。	
12	⑧地方自治と住民の福祉 ⑨世論形成と政治参加	・地方自治での住民の権利と課題について、具体的に考察する。 ・政党の役割，選挙のしくみ，世論の形成について，考察する。	
1	2 青年期と現代に生きる倫理 ①キリスト教 ②イスラーム	・キリスト教について理解する。 ・イスラームについて理解する。	課題提出による学習状況観察
2	③仏教	・仏教について理解する。	
3	4 私たちの生きる社会 ①公害の防止と環境保全 ②消費者保護と契約	・身近な生活に関わりの深い公害、消費者問題について理解を深め、考察する。	

＜定期考査対策について＞

○定期考査の学習には、「授業のノート」やプリントを十分に活用してください。

○教科書、ノート（板書の記録）から出題しますので、授業内容の振り返りを 十分に行いましょう。

○まず教科書・資料集を熟読し，ノートを整理しましょう。